

杉山委員（日本小児総合医療施設協議会）

提出資料

子どものこころの問題への
地域での医療ネットワークの構築を目指して

あいち・こころの診療医 研究会の取り組み

あいちこころの診療医研究会

山崎嘉久、杉山登志郎(あいち小児保健医療総合センター)

稲坂 博(愛知県医師会理事)

志水哲也、有吉允子(愛知県小児科医会)

あいち・こころの診療医研究会

【目的】

軽度発達障害を始めとした子どものこころの診療に関わる実践的な臨床診断・治療の向上と小児科医師・内科医師・精神科医師のネットワークを通し、軽度発達障害等の疾患を持つ児童・家族に貢献する。

【事業】

- (1) 研修会開催
- (2) 学術講演会開催
- (3) 情報、技術、文献等を交換、配布
- (4) その他

あいちこころの診療医研究会

発達障害への対応の為の実践研修講座(2006年度)

	曜日		形式	内容
第1回 10月 15日	日曜日 午後1時 ～4時半	診断 講師:東誠 今本利一	講義	診察のポイント(PDDとADHD、LDの鑑別を中心に) 問診のとり方(幼児期・学童期・思春期の各versionの問診票とDSMを提示して説明)
			ビデオ供覧	発達障害児の理解①
			discussion	質疑応答とdiscussion
第2回 11月 5日	日曜日 午後1時 ～4時半	治療とfollow up 講師:浅井朋子 河邊真千子	講義	発達障害をfollow upするとは? follow upにつなげる告知のあり方 治療のアルゴリズム PDDの転帰と各ライフステージの発達課題
			ビデオ供覧	発達障害児の理解②
			discussion	質疑応答とdiscussion
第3回 12月 3日	日曜日 午後1時 ～4時半	その他の症状と併存症への対応 講師:内田志保 並木典子 講師:田村 立	講義	問題行動・パニック・併存症への対応(認知の特徴に沿った対応・薬物療法) PDDの精神病理(認知の特徴、感覚過敏、フラッシュバックなど) 社会資源についての情報と利用方法
			ビデオ供覧	発達障害児への診療場面での対応
			discussion	質疑応答とdiscussion
第4回 10月～1月	木曜日・金曜日	診察陪席	陪席	初診外来1回、再診外来1回への診療陪席
			discussion	質疑応答とdiscussion
第5回 1月 14日	日曜日 午後1時 ～4時半	症例検討とafter session 講師:杉山登志郎	症例検討	受講者からの症例提示 インシデントプロセス法による症例検討

場所:あいち小児保健医療総合センター 地下1F 大会議室・心療科診察室

講演会 「軽度発達障害への対応：医療システムと地域の連携」

講師：杉山登志郎

2006年8月20日(日) 10:00～12:00 参加：84名

第1回 実践講座

2006年10月15日(日) 13:00～16:45 参加：84名

- ・実践講座1：広汎性発達障害の診断と鑑別 東 誠
- ・実践講座2：発達障害に必要な心理検査 今本利一

第2回 実践講座

2006年11月 5日(日) 13:00～16:40 参加：70名

- ・実践講座1：発達障害の治療とfollow up 浅井朋子
- ・実践講座2：個別心理療法の実際 河邊真千子

第3回 実践講座

2006年12月3日(日) 13:00~16:40 参加:60名

- ・実践講座1:広汎性発達障害に対する薬物療法の位置づけ 田村立
- ・実践講座2:発達障害児への福祉 大橋信彦
- ・実践講座3:問題行動の理解の仕方と対応の方法 並木典子
- ・実践講座4:支援の実際 内田志保

第4回 診療陪席

2006年10月~2007年1月 初診枠:40名 再診枠:50名

- ・初診外来:金曜13:00~16:00
- ・再診外来:木曜 9:00~12:00・13:00~16:00
- 金曜 9:00~12:00

第5回 実践講座

2007年1月14日(日) 13:00~16:30 参加:57名

- ・実践講座1:質疑応答と症例検討(インシデントプロセス法を学ぶ)
- 講師:杉山登志郎

診療陪席を伴う研修会参加者(A班) 50名

経験年数:23.3年±9.9年

サブスペシャリティ:小児一般診療40、アレルギー9、神経9、心身医学8、小児保健7、感染症4、消化器3、、循環器2、内分泌2、遺伝1、血液腫瘍1、腎疾患1、代謝異常1、新生児1
精神科5、一般内科心療3、皮膚科1、産婦人科1、臨床心理学3

研修参加の動機

一般小児診療に役立てたい。小児科のプライマリケア医になるために生かしたい。
一般小児科医として、感冒などで診療所へやってくる発達障害児・家族の相談にのりたい。

子どもに適切な対応をしたい。

発達障害児と健常児の境界領域にいつも悩んでいる。

日本小児科医会「子どもの心の相談医」資格を持っているが、診療に自信がない。

保健所での健診、小学校、幼稚園からの相談に役立てたい。

園医・校医としても深く知らなければいけない。

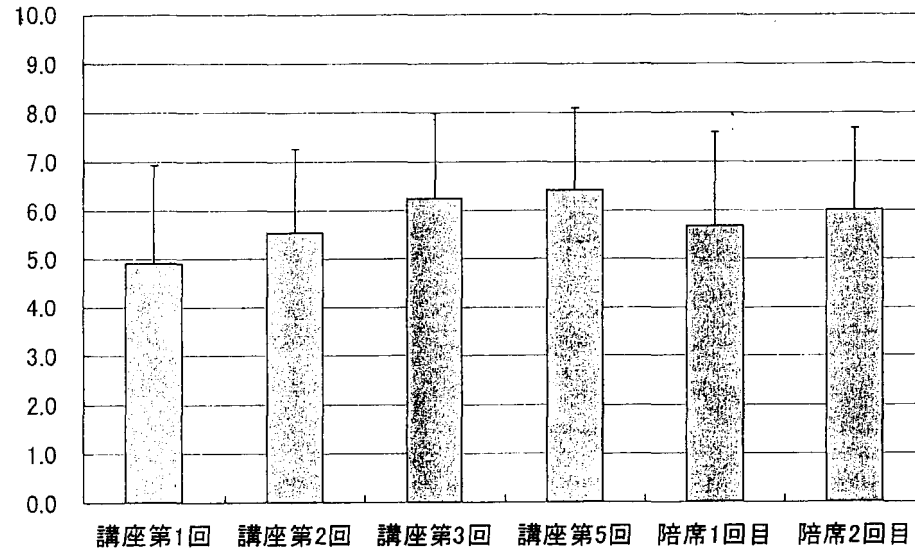
療育センター、福祉施設、児童相談所の医師として必要。

小児神経専門外来、小児発達外来、カウンセリング外来に生かしたい。

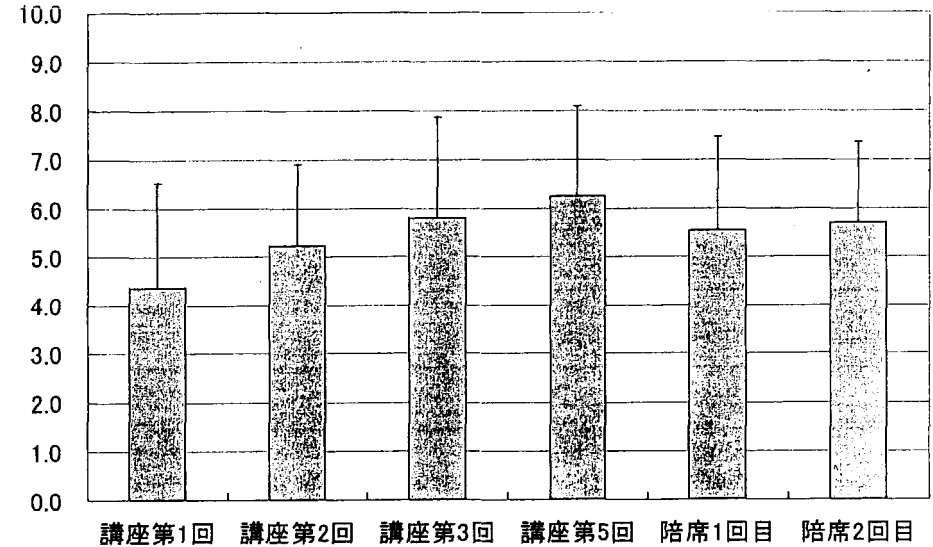
精神科医師として必要。

研修会終了後の自己習熟度評価の推移(A班)

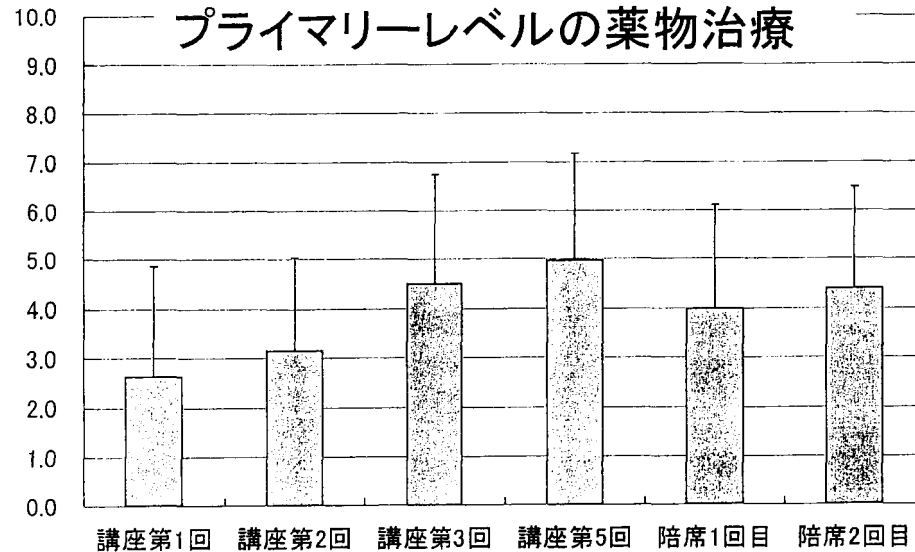
発達障害についての医学的知識



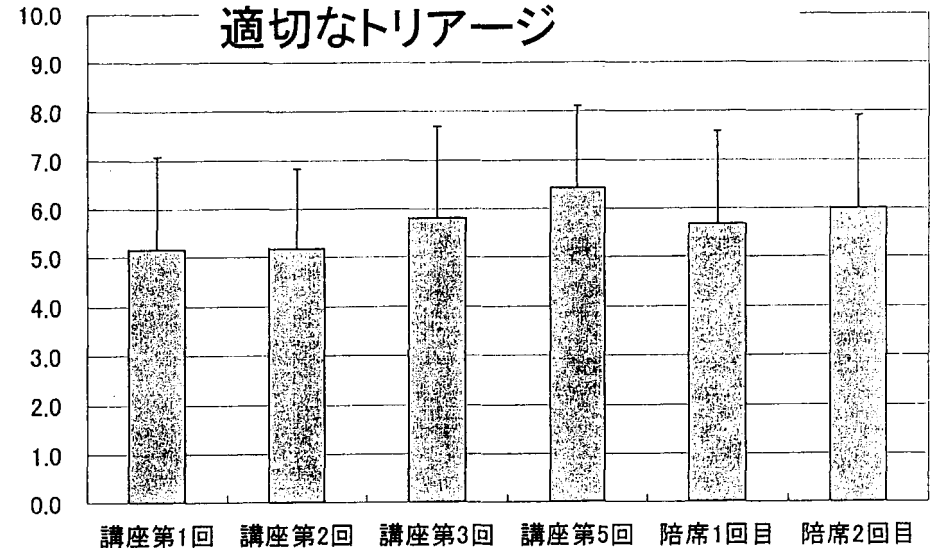
発達障害を診断する自信



発達障害への治療適応の決定と プライマリーレベルの薬物治療

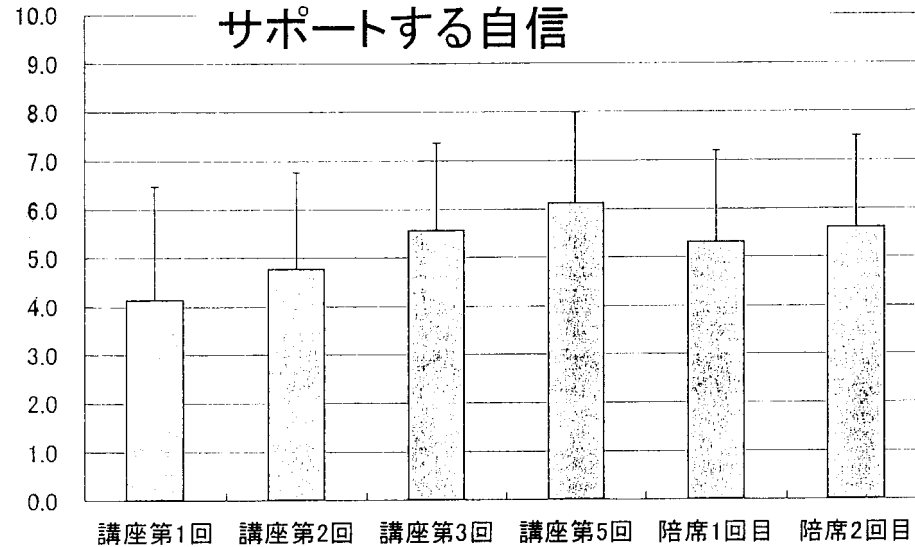


専門病院に紹介するための 適切なトリアージ

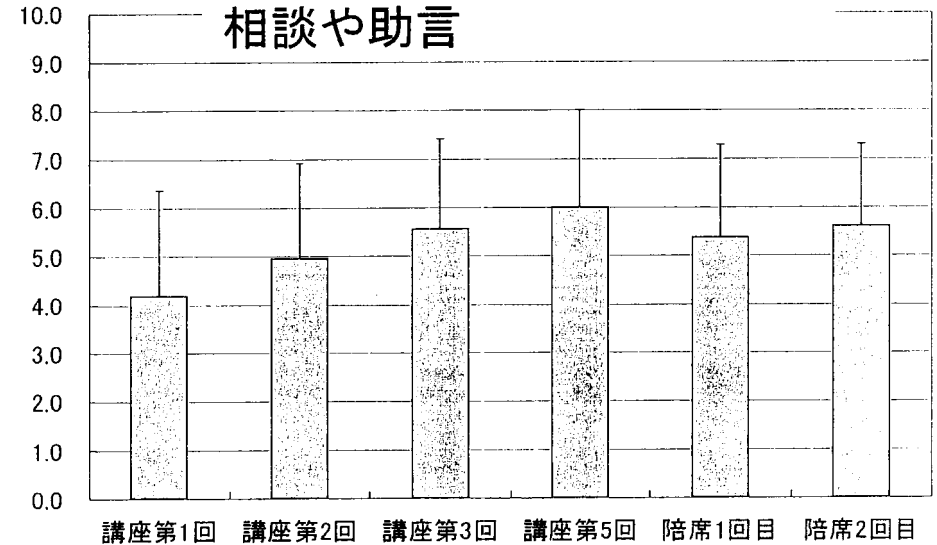


研修会終了後の自己習熟度評価の推移(A班)

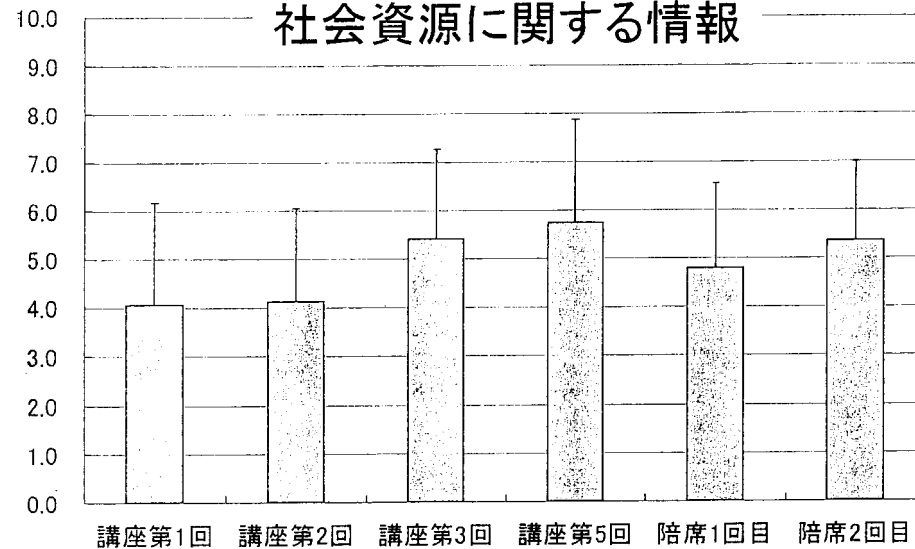
発達障害の子どもを持つ親をサポートする自信



教育・保育機関関係者からの相談や助言



発達障害児を支援する社会資源に関する情報



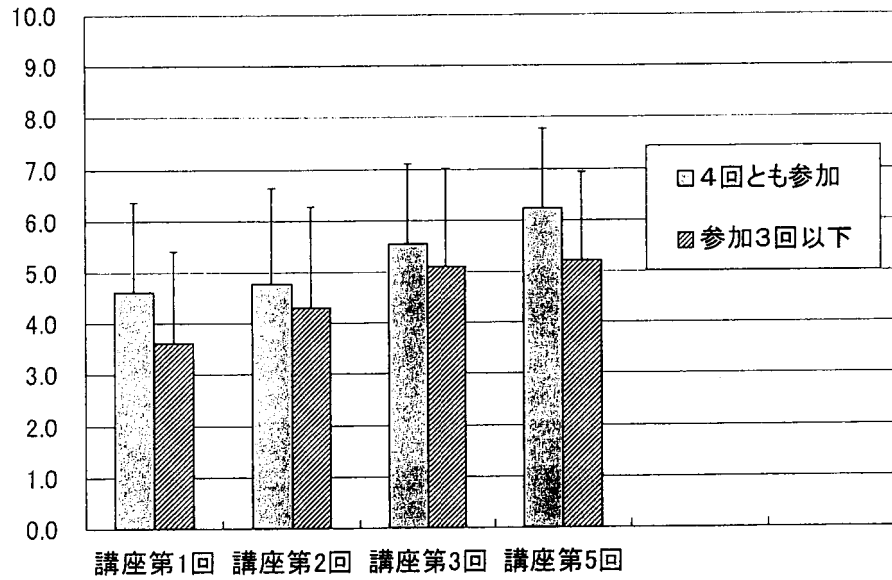
A班：診療陪席実施者
(実践講座4回参加を義務づけ)

スコア値は、質問項目に対する自己習熟度を次のようなスケール上にプロットする方法で測定

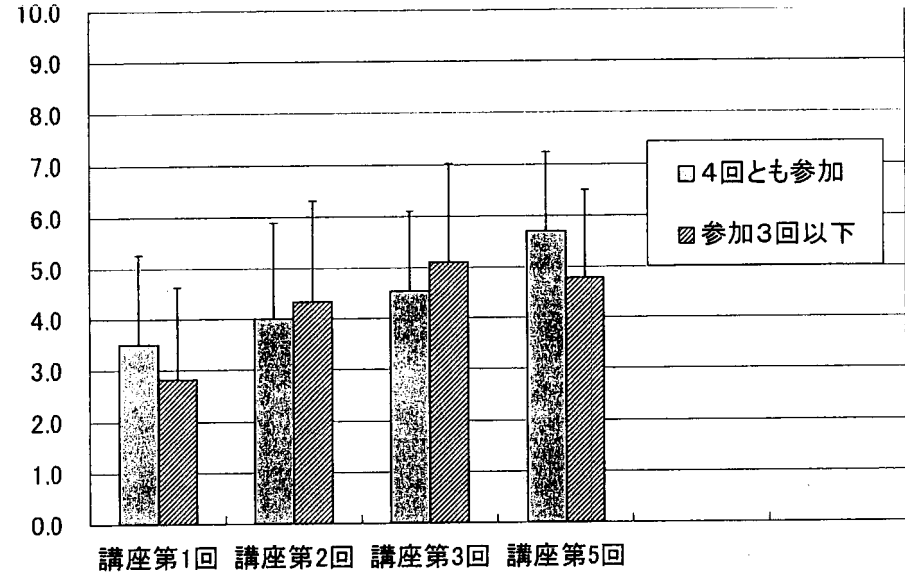
10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
十分持っている まったくない

研修会終了後の自己習熟度評価の推移 (B班)

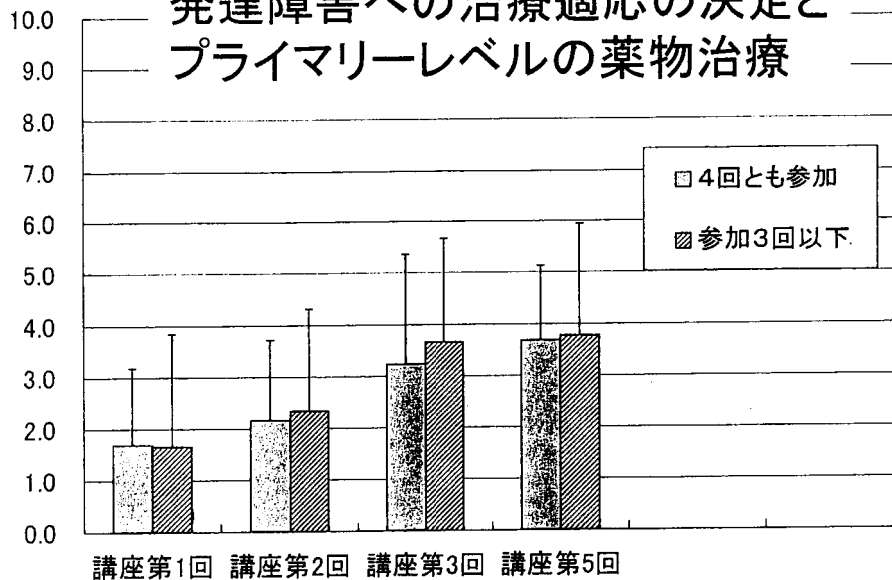
発達障害についての医学的知識



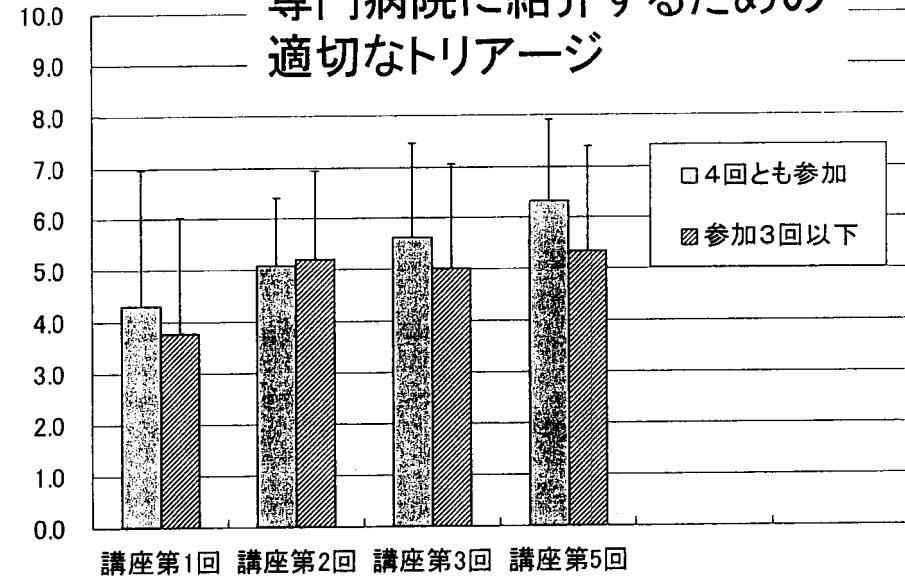
発達障害を診断する自信



発達障害への治療適応の決定とプライマリーレベルの薬物治療

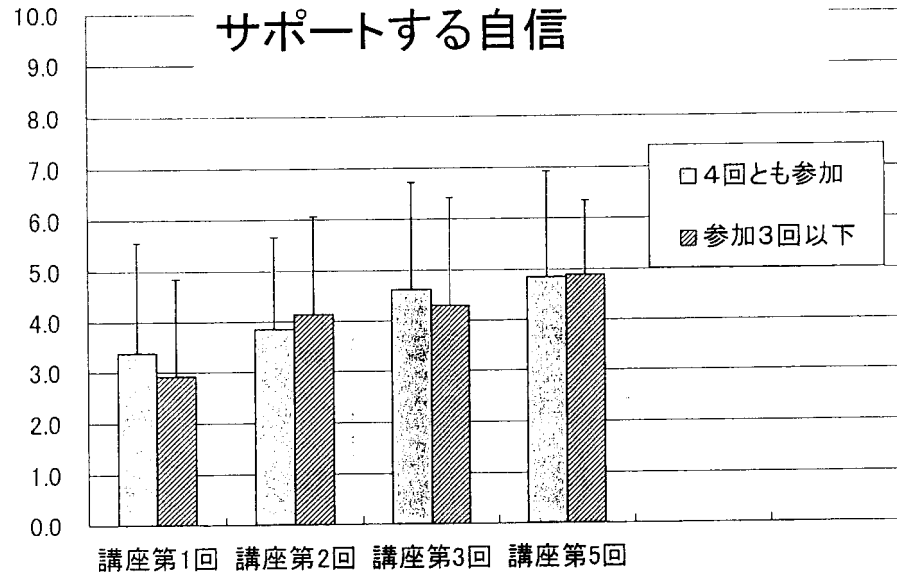


専門病院に紹介するための適切なトリアージ

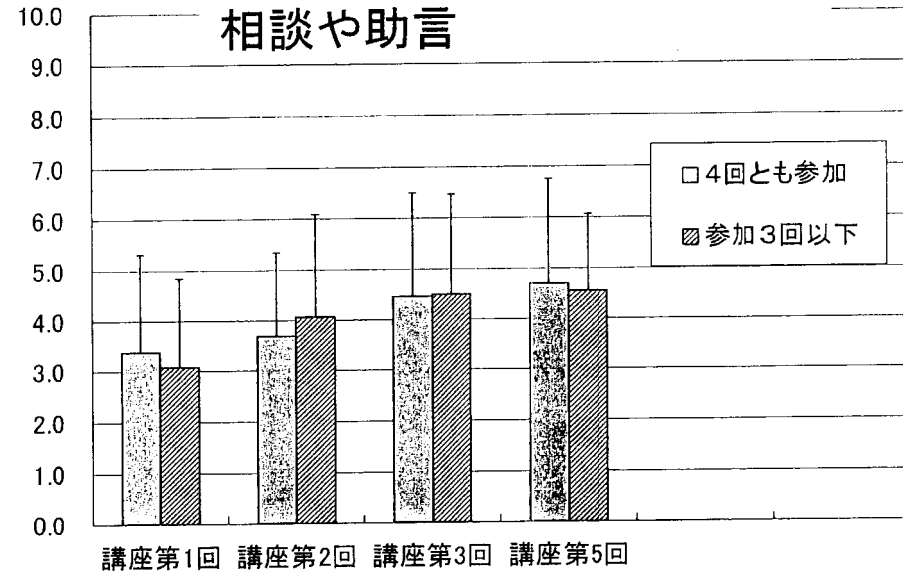


研修会終了後の自己習熟度評価の推移(B班)

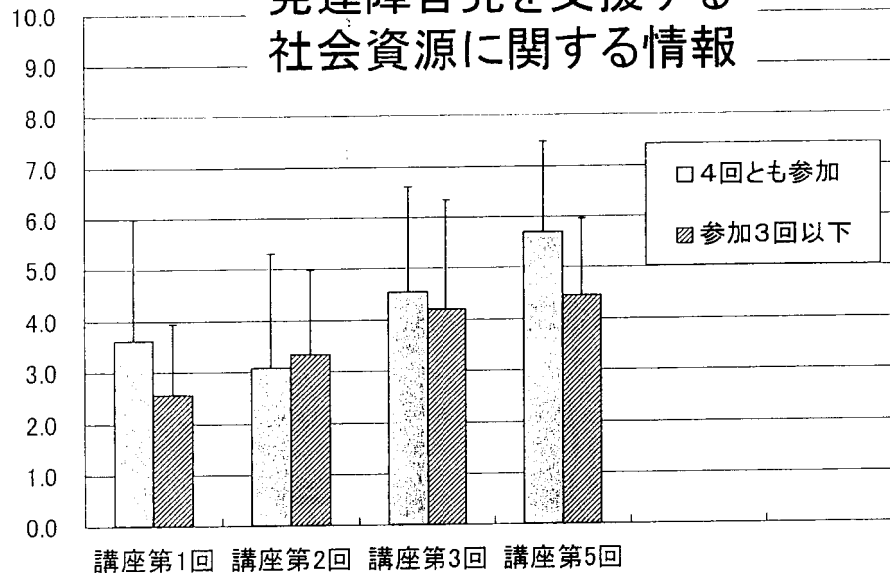
発達障害の子どもを持つ親をサポートする自信



教育・保育機関関係者からの相談や助言



発達障害児を支援する社会資源に関する情報



B班：診療陪席実施なし

- ・本人の陪席への参加希望なし または
- ・経験豊富と事務局が判断した先生

4回とも参加：実践講座皆出席者
参加3回以下：上記以外

【まとめ】

- ・小児科医など一般小児診療に携わる医師に対して、連続講座（4回）への参加と児童精神科医師の外来診療への診療陪席（初診1回、再診1回）による軽度発達障害の研修を実施した。
- ・診療陪席を伴う研修には申し込みが殺到し外来枠の都合からあえて50名に限定せざるを得なかった。
連続講座にも多くの希望者があり、のべ444名が参加した。
- ・自己習熟度による研修評価では、設定したすべての項目で研修の効果が認められた。
- ・診療陪席を実施した群、ならびに連続講座4回出席群は、連続講座3回以下出席群に比べて、ベースラインの自己評価が高く、習熟度もより高くなる傾向にあった。